

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200760		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子の家		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目10-2		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化、介護度の重度化により問題もあるが、ひとりひとりに寄り添い、その人らしい生活が出来るように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani%3D%3E&JigyosyoCd=0170200760-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年3月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、長年にわたり地域に根ざした福祉を目標として、東区を中心に研修・勉強会等で情報を発信しており、信頼も厚い。今年度のグループホーム全国大会で、「新介護記録への取り組み-入居者の姿・ケアプランが見える記録を目指して-」と題し、業務をさらに効率的に行うという観点から、記録様式類の改訂を行った成果を発表した。主に、日々の個人記録様式に、入居者が発した言葉を直接記載出来るよう「つぶやき欄」を設け、ご本人の言葉を活かした日々のケアと、アセスメント能力を高めることに役立っている。ホーム長発案の特徴的なイラスト入りの記録様式は、複数の様式にそれぞれ記録していた「1日」を、簡単に1つにまとめられるアイデア様式であり、職員の記録にかかる時間の削減に繋がっている。開設13年目を迎え、今後も地域密着型サービスの拠点としての活躍が望まれる。さらなる今後に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり いっしょに 楽しく 豊かに」を理念とし、個々を意識するように働きかけを行い、共有しより良いケアを目指して取り組んでいる	玄関前にホーム独自の理念を掲示している。日常的に職員間で共有し、質の高いサービスの実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や救命救急講習等に参加している。またホームの避難訓練には町内の方も参加している。	町内会に加入し、行事に参加・協力している。定期的にわかりやすい勉強会等を企画し、気軽に立ち寄ることの出来る雰囲気作りで、地域交流に積極的に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療・福祉に関して法人主催の健康教室等を開催し、好評を博している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、徐々に参加者も増えてきている。ホーム内の状況報告や介護食や高齢者の住まいについての勉強会等を行っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、家族、地域住民や行政担当者が参加し、運営状況や活動報告、勉強会等を行っている。議事録は家族へ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事例発表の機会を利用し、取り組んでいる。	所定の運営推進会議・事務連絡の他、日常的に相談、ホームの取り組みの発信等、情報交換を行い、関係作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等の機会を利用し、スタッフ間で話し合っている。夜間、気分の高揚が著しく、転倒のリスクが高い入居者については、家族の理解と承諾を得たうえでベットの転落を防止するために椅子や鈴を使用している。	日中は施錠せず目配り、気配りに配慮し、日常生活を支援している。勉強会やカンファレンスの機会に全職員で検討し、身体拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンス等の機会を利用して、スタッフ間で周知徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者はいないが、研修会等があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に家族と面談し、十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見、要望を表して頂けるように入居者・家族とのコミュニケーションを図れるように取り組んでいる。	家族参加型の行事には多数の参加があり、コミュニケーションは良好である。利用者本位を運営の柱の一つとしており、日常の意見・要望をくみ上げるシステムもあり、家族からの信頼は厚い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの場やアンケート等で意見を聴き、反映している。	カンファレンスやケア会議の場で、職員全体での意見交換、提案を受け、運営に反映させている。また、新しい取り組みを行う際には、都度、全職員にアンケートを実施し、意見の聴取に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定時には達成可能な目標とするなど日々達成感ややりがいを感じる事が出来るように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	折に触れ面談を行い育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や委員会活動を通じて交流をする中で、サービスの質の向上を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を収集して、アセスメントを行い、プランを立て、関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来訪時は入居者のホームでの生活状況を伝え、また入居者の情報を聴き、ケアに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には情報を収集し、家族との面談も行い、サービスの提供を開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他入居者とともに大きな家族である事を意識しながら日々のケアを提供し、関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にも家族とともに支える事が重要である事を説明している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく気軽に来訪して頂けるような雰囲気作りを心掛けるとともに、家族にも参加してもらええる行事も行っている。	利用者・家族より馴染みの人・場所を聞き、昔ながらの関係が維持出来るよう定期的、希望時に職員が同行し、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事が内容に声かけや介入をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も来訪される家族もあり、関係性を大事にしながらか支援を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り入居者の思いや希望を聴くようにし、家族も交えながら最善の環境を提供できるようにしている。	利用者の今までの生活の様子や意向を本人・家族から聴き取り、希望に沿うよう全職員が対応を統一し、支援している。また、個人記録様式を見直し、より本人の声に沿ったケアが出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴等の情報の把握を行い、その人らしい生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に様子を観察し、記録やカンファレンス等で情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやカンファレンスで共有した情報をケア担当者が分析し、計画作成者と話し合いながらケアプランを修正し家族の評価も反映させている。	居室担当者・管理者を中心に利用者、家族の要望を伺い、カンファレンスで協議し、介護計画を作成している。随時見直しをし、変更が必要な場合はユニットリーダー・ホーム長に確認のうえ、即日変更が可能な体制を整えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の様子やケアの提供についての情報が確実に記載されるようにし、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じて法人内の協力を要請し、より高いケアが提供できるように臨機応変に問題解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方たちとの繋がりを常に意識し、関係を深めるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は付き添ったり、情報を提供するなどして必ず関わり、支援している。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう、努めている。また受診内容については個別に記録し、職員が共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化が見られた時は状況を的確に報告し、相談できる関係作りを心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書を書き、病院にもなるべく通い、連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて医療サイドとともに面談を行い、入居者と家族の意思を確認しながら看取りに取り組んでいる。	母体である医療法人との連携により、重度化や終末期に関する方針を明確化、同意書を交わし、看取りを積極的に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身近な出来ごとからイメージトレーニングを行うとともに勉強会も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行う中で、地域との協力体制も築くようにしている。	避難訓練は昼夜想定で年2回実施している。入居者、近隣住民も参加し、火災、震災時の避難方法等の確認、協力体制作りにも努めている。非常用品は玄関付近に置くなど、実際に想定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳を大切にされた対応を心掛けている。	入居者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけ、研修等の場で共有・理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いを知るためにその人の言葉を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入床時間、食事時間などすべてをスタッフ主導ではなく、入居者のペースを考慮するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の好みを聴き、服を選んだり、訪問美容を利用し、身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を考慮しての献立を提供している。また出来る限り食器拭きや味付け等に参加してもらっている。	食材の買い出しから後片付けまで、入居者個々から好きな作業を聞き取り、手伝い参加をお願いしている。全てが手作りの食事は、入居者・家族からも大変好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を把握しており、状況に応じて好みの物を提供するなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。歯ブラシの使用やうがいが困難な入居者にはスポンジブラシを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ出排泄が出来る事を目標に日々取り組んでいる。失禁時には原因を考え、対応している。	基本的にオムツを使わないよう取り組んでいる。職員が利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、小さなサインを見逃さないようにして、適切にトイレに誘導するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉ヨーグルトや冷牛乳の提供や足上げ・階段昇降などの運動で便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を第一に考えながら、タイミングを大切に誘導している。入浴が楽しい時間となるようにゆったりと関わるようにしている。	週2回を目標に、入居者個々の状況に合わせて、希望に応じて無理なく、自然に入浴出来るよう配慮、支援している。やむを得ず入浴出来ない時は、清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活リズムを大切にして、良眠出来るように日中の活性化を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服用できるようにその人に応じた介助を行っている。薬変更時は予測される状況を共有し、観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団でのアクティビティだけでなく、個別のアクティビティの提供を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながらなるべく外気に当たるように支援している。マンツーマンでの散歩を大事にしている。	スーパーへの食材の買い物や外食、散歩といった外出機会を多く持つよう努めている。また、個々の入居者の希望に沿って日用品の買い物、用足し等を職員同行で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどお金を所持されていないが、所持金がないと不穏になる方のみ所持しており、家族と協力しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は支援している。また年賀状や暑中見舞い等 折に触れて手紙を書いてもらい、家族に出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し、室温等には注意をしている。また季節に合わせた装飾品を入居者とともに作成し、飾っている。	共用空間は、採光もよく温湿度が調整され、清潔に保たれている。四季に合わせた飾り付けの工夫がなされ、利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで居心地のよい環境を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく心地よい空間に鳴るように配置などに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を置くなどして、落ち着ける居室作りを家族の協力のもと行っている。	居室は、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込めるよう配慮されている。また、温・湿度の管理がなされ、居心地よい空間作りのための工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて貼り紙をするなどして自立支援をしている。		